

いつも一緒  
富山のペットたち

ワンちゃんや猫ちゃんに「最近よく水を飲み、大量におしっこをする」といった症状はありませんか。



西尾 洋介

このような症状を示すたくさん病気の中心から、今回は子宮蓄膿症と慢性腎不全について説明します。

子宮蓄膿症は、ホルモンの刺激と細菌感染によって子宮内膜炎を起し、それが重症化して子宮内に膿をためてしまう病気です。平均8歳前後の中高齢のメスが発症しやすいようです。特に、ワンちゃんは発情後8週以内、猫ちゃんは発情後4週以内に起こることが多いとされています。発情後、妊娠していないのに妊娠しているかのような行動(想像妊娠)を繰り返すワンちゃんも、子宮蓄膿症になる確率が高いといわれています。多飲・多尿、食欲不振、元気がない、嘔吐、外陰部から血や膿が出るといった症状が現れ、重症化すると命を落としてしまうこともある怖い病気です。

子宮の病気と腎不全

ハニーアニマルクリニック院長 (富山市婦中町広田)

手術は、悪くなってしまう子宮と卵巣を摘出します。避妊手術と同じように思われるかもしれませんが、状態の悪いワンちゃん、猫ちゃんに行う手術なので非常に危険を伴います。手術を無事に乗り切った場合は、比較的早く改善します。薬で治す方法は、手術に耐え

次は慢性腎不全についてです。この病気は、腎臓の機能が数カ月から数年をかけて少しずつ失われていきます。中高齢のワンちゃんや猫ちゃんに多く起こります。

腎臓は空豆のような形で、左右1対あります。腎臓の機能が低下すると、体に必要な水分やミネラルを保つことができず、尿の量が増えて脱水症状になります。それを補おうと、たくさん水を飲むようになります。

治療には、吐き気止めや血圧を調整する薬、毒素を吸着する活性炭、貧血を改善するホルモン剤などを使用します。7歳前後から、少なくとも年に1度の健康診断(血液検査や尿検査)を受ければ、はっきりとした症状が出る前に腎機能の低下に気付いてあげられるかもしれません。残念ながら、腎臓はいったん病気になるとうちが戻らない臓器です。早期発見、早期治療がとても大切です。

飲む水増えたら要注意

られない場合や、どうしても飼い主さんが繁殖を希望される場合に行いますが、症状の改善には時間がかかります。どちらの方法を選ぶかは、主治医の先生と十分に相談してください。

子宮蓄膿症を防ぐには、避妊手術が有効です。繁殖の予定がない場合などは、若齢期に避妊手術を受けるとよいでしょう。

慢性腎不全になると、血液中の老廃物を尿の中に捨てることができなくなり、食欲不振、嘔吐、口臭などが起こります。体

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。



ペットがたくさん水を飲むときは、病気の可能性がある。普段から注意深く観察しよう

2012 (平成24) 年 3月1日  
北日本新聞